

西国三十三霊場巡りマラニック 第十八番 紫雲山 頂法寺(六角堂)

フル百回楽走会
593
武藤 翔峰

二十年三月九日

宗派は天台宗(単立)、本尊は如意輪観世音菩薩、開基は聖徳太子である。聖徳太子が用明天皇2年(587年)に四天王寺建立の用材を求め、この地を訪れたとき、泉を見つけ水浴したと伝えられている。そのとき護持仏をそばの木にかけたが、これが木から離れなくなったという。その夜、夢のお告げがあり、護持仏の観音がここに留まることを望むというので、六角形の堂を建て観音を安置したと伝えられ、これが頂法寺の創始とされている。弘仁13年(822年)には嵯峨天皇の勅願所となり、長徳2年(996年)には花山法皇の行幸があり、西国三十三ヶ所観音霊場となった。「本堂」を上空から見ると、その形が六角形であることから、「頂法寺」という正式名称よりも「六角堂」のほうが一般的な呼び名になっている。

「本堂」の西側には小さな石仏群があり、桜もちょうど満開でとても風情のある景色だった。

今日の予定はここまでであったが、帰りのバスの時刻までにはまだ時間があったので、世界遺産の東寺を訪れることにした。



西国三十三霊場巡りマラニック 付録編

八幡山 東寺 真言宗総本山

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

二十年三月十九日

日本一大きな高さ57mの五重塔（国宝）で知られる東寺真言宗の総本山。山号は八幡山、本尊は薬師如来である。「古都京都の文化財」の一部として世界遺産に登録されている。平安京への入り口である羅城門の左右に築かれた東西の寺のひとつ。建立の最中、空海により真言密教の根本道場とされた。伽藍は、南大門、金堂、講堂、食堂と直線上に建つ奈良時代の形式。国宝の金堂には本尊の薬師三尊像が安置されており、講堂には21体の仏像からなる立体曼荼羅など見所も多い。弘法大師空海(774年 - 835年)は、讃岐国(香川県)出身の僧。真言宗の開祖であり、東寺と高野山(金剛峯寺)の基礎を築いた実在の人物であるが、後世には空海自身が「お大師様」として信仰の対象となり、なかば伝説化された存在となっている。五重塔(国宝)は、東寺のというよりは京都のシンボルとなっている塔である。高さ54.8メートルで木造塔としては日本一の高さを誇る。

今回の西国三十三霊場観音巡りマラニックは、孫息子との二人旅であったが、キロ4分台の脚力には勝てず、ついて行くのが精一杯であった。歴史が好きで知識も豊富で教えられてばかりの大変有益なマラニックだった。



